

第 5 次那覇市総合計画基本構想 (案)

基本構想 (案) 市民提案比較表

基本構想 (案)	市民提案
この基本構想は、長期的展望に立ち、これからの那覇市の将来像とその実現のための基本的な理念と方向性を示すものです。具体的には、市民と行政がともにめざすべき本市の将来像を「まちづくりの将来像」として掲げ、その実現のための基本理念として「市政運営の姿勢」を、方向性として「めざすまちの姿」を明らかにしました。さらに、組織横断的に取り組むべき重点取組事項と行政のあるべき姿を示した上で、先に策定した那覇市まち・ひと・しごと創生総合戦略（人口ビジョン）を踏まえ本構想の計画期間終了時点での人口の目標を設定し、総合的で計画的なまちづくりを進めます。 1 まちづくりの将来像 <u>なはで暮らし、育て、働こう！笑顔広がる元気なまち NAHA</u> <u>～みんなでつなごう市民力～</u> 万国津梁の精神で大海原を舞台に雄飛した琉球王国の文化と歴史を今に受け継ぐ私たちの那覇市は、大正 10 年（1921 年）に市制を施行して以来、美しいまちなみと亜熱帯特有の自然が調和した都市を形成してきました。 沖縄戦によるゼロからの再出発を余儀なくされ、さらには、米軍による統治を経験してきたものの、平和と自治を希求する市民の力によって、少しずつかつてのにぎわいを取り戻してきました。産業や経済、医療、教育、文化などの都市機能を集積させながら、今では、県都としての風格を備えた都市へと発展しています。 このような激動の時代を歩んできた本市は、本計画期間中に市制施行 100 周年を迎えます。先人たちのたゆまぬ努力に想いを馳せ、これまでの 100 年で築き上げた風格を大切にするとともに、これからの 100 年に向けて確実な一歩が踏み出せるよう、新たな礎を築いていかなければなりません。	まちづくりの将来像 <u>なはで暮らそう！働こう！笑顔広がる元気なまち NAHA</u> <u>～みんなでつなごう市民力～</u> 「暮らそう！」に込められた想いについて、住みたいまち、住みよいまちにしたい 「働こう！」に込められた想いについて、生活するためには企業や産業が活発で働く場がなければならない 「笑顔広がる元気なまち」に込められた想いについて、健康であることが、幸せの根底にあり、笑顔でいられる。自分ひとりの健康だけでなく、周りの人の健康に気遣い、みんなが幸せなまちが生き活きと輝いている。 100 年前の「なあふあ」は現在「なは」「那覇」になり、これからは「NAHA」という国際都市へ発展していきたい。 「みんなでつなごう市民力」に込められた想いについて、私たちは市民の力を信じてここまでやってきた。この市民力をみんなでつないでいくことが那覇市をよ

基本構想（案）	市民提案
私たちは、一人ひとりの市民の力をみんなでつないでいくことをまちづくりの基礎とします。その上で、輝かしい未来に向かって歩みながら、愛着と誇りを持って暮らし、子育てを楽しみ、活き活きと働く市民の笑顔が元気いっぱい広がる活力あふれる「<u>わった一自慢</u>」のなは、那覇、NAHA を築いていきます。 2 市政運営の姿勢 本計画を効果的かつ確実に推進するためには、一人ひとりが結びつく絆が重要となります。それにより、全ての施策がジグソーパズルのように互いにつながり、やがて面となり、市全体に広がります。そのために、次のKからはじまる5つの絆を築いていくことを市政運営の姿勢としてまちづくりを進めていきます。 (1) 協働の絆 (Kyodo) 情報の共有と対話の積み重ねにより、様々な担い手の連携の輪をつなぎ、愛着と誇りを持って地域をつないでいきます。 (2) 共生の絆 (Kyosei) 子どもから高齢者までの全ての人々が、世代や性別の枠を超えて1人ひとりの暮らしと生きがいを、ともに創り高め合う社会を築いていきます。 (3) 活力の絆 (Katuryoku) ヒト・モノ・カネ・情報といった地域資源の可能性を最大限に活用し、市民の日常や経済活動を活性化させていきます。 (4) 共鳴の絆 (Kyomei) 地域や他自治体の好事例を学び、積極的に取り入れ、水平展開し、発展の連鎖を響かせていきます。 (5) 寛容の絆 (Kanyo) 様々な課題が多様化する現代社会にあっても価値観や立場の違いを乗り越え、おおらかに受け入れ、包み込むことで、心に優しい社会を築いていきます。	りよいものにしていくと考えている。

基本構想（案）	市民提案
3 めざすまちの姿 まちづくりの将来像として掲げたまちの姿を具体化するために、5つのめざすまちの姿によって進むべき方向性を示します。これらは、互いに独立するものではなく、有機的に連携しながら本市の将来像を実現するものです。 <u>自治・協働・男女参画・平和・防災・防犯</u> <u>多様なつながりで共に助け合い、認め合う安全・安心に暮らせるまち</u> NAHA イチャリバチャオーダーとユイマールの精神でおおらかなコミュニティを築きながら発展してきた本市は、個人や個性を尊重し、多様な生き方が認められる素地が整っています。挨拶から始まる交流が世代を超えてつながり、市民みんなが主役となり楽しく安全・安心に暮らせるまちをめざします。 そのために、お互いが思いやりや譲り合いの気持ちであふれ、心と心が響きあい・紡ぎ合う協働によるまちづくりによって地域の力を高めていきます。<u>小さな「わ」が大きな「WA」※1へとつながるように、自助、近助※2、共助、公助の役割を確認しながら、地域の人々と行政が対話を重ね、地域の課題解決に協働で取り組みます。防災・防犯に関する活動等を重ねながら、地域が結束した誇り高いまちづくりを進めます。さらに、恒久平和を希求する市民の想いを未来へと発信するとともに、一人ひとりの人権が尊重され、誰もが安心して暮らせるまちづくりを進めます。</u> [393] ※1 地域の通り会やサークルなどの小さなグループ「わ」をつなぎ、国際都市に相應しい大きなコミュニティ「WA」へと発展させたいという市民の思いが表現されています。 ※2 近助とは、共助よりもより身近な地域で思いやりや譲り合いの心を基本にした自然に出てくる助け合いを指す言葉として、この言葉に感銘を受けた市民から提案された造語です。	<u>自治・協働・男女参画・平和・防災・防犯</u> <u>多様なつながりで共に助け合う</u> <u>～小さな「わ」でつながる大きな「WA」～</u> 【めざすまちの姿に込められた思い】 「<u>防災・防犯の基礎は自治・協働</u>」というビジョンを基に防災・防犯の那覇市を創る ■取組みの方向性 1 多様な人の参加により、<u>ちいさな「わ」が繋がって大きくなる</u>。みんなで街をつくり、みんなで命を守る。 ■取組みの方向性 2 災害への対応としてまず<u>自助</u>、続いてお隣同士が自然と繋がる<u>近助</u>、平時の備えの賜物である<u>互助</u>、<u>共助</u>、最後に行政による<u>公助</u>、この5つのレベルがある。<u>各レベルを意識して対応策を考えていく</u>。 ※近所とは、5次総計のために作った造語で、おせっかいを基本にした自然に出てくる助け合いのこと。 ■取組みの方向性 3 まずは独自に<u>災害に備える</u>こと。自分の命は自分で、自分たちの街は自分たちで守る。災害を予知できなくとも、災害を最小限に抑える。 ■取組みの方向性 4 自治の新しい担い手を育成する。すでにある小さな「わ」（スモールグループ）を再発見していく。

基本構想（案）	市民提案
保健・福祉・医療 <u>互いの幸せを地域と福祉で支え合い誰もが輝くまち</u> NAHA 超高齢社会の到来、少子化及び核家族化が進行する中においては、地域のつながりがより重要になります。<u>すべての人が自分らしく輝き</u>地域の一員として見守り・見守られ心身ともに健やかで安心して暮らせるまちをめざします。 そのために、<u>地域と世代がつなぐ支え合い</u>により、<u>障がいのある人も、ない人も、子どもも、お年寄りも、皆が夢や生きがいをもち、地域の中で安心して暮らせるまちづくりを進めます。</u>また、誰もが健康で文化的な生活基盤のもとに健やかに育つ環境を整え、<u>次代を担う子供たちの夢や希望を応援します。</u><u>一人ひとりが自らの健康づくりに取り組むよう、</u>市民の健康意識を高めるとともに、誰もが身近な地域で良質な医療を受けられるまちづくりを進めます。住み慣れた地域で自分らしく暮らせるよう医療、介護、介護予防、住まい、日常生活の支援が包括的に確保される体制を確立します。大災害や感染症等の原因により生じる健康危機から市民や来訪者の健康を守る体制を整えます。[413]	保健・福祉・医療 <u>私らしく生きる幸せを、お互いに輝き、支え合うまち</u> 【めざすまちの姿に込められた思い】 ・どのような個性に対しても、認め合い、尊重しあい、理解しあえる、なはのまち ・市民一人ひとりがお互いに輝きあえるよう、絆を紡ぎあえる、なはのまち ■取組みの方向性 1 「ありがとう」がつなぐ絆 ・障がいがあっても「私らしく」生きることができる<u>まちづくりの推進</u> ・介護が必要になってもあかちゃんからお年寄りまで幸せに暮らしつづける<u>まちづくりの推進</u> ・個人、個性を尊重し多様な生き方ができる<u>まちづくりの推進</u> ■取組みの方向性 2 「地域と世代」がつなぐ絆 ・おじいとおばあが笑顔で元気に過ごせる<u>まちづくりの推進</u> ・子どもたちが家族と地域の愛情を受けて元気に笑顔で成長できる<u>まちづくりの推進</u> ・働きざかりの世代が健康に不安を覚えることなく、仕事・子育て・介護などに取り組める<u>まちづくりの推進</u> ■取組みの方向性 3 「使命感と感謝」でつながる絆 ・生きがいになる仕事をすることができ、将来に夢を持てる<u>まちづくりの推進</u> ・まちづくり、ひとづくりにも沢山のボランティアが関われる<u>まちづくりの推進</u> ・“体”も“こころ”も共に健康になれるよう<u>お互いを大切にできるまちづくりの推進</u>

基本構想（案）	市民提案
子ども・教育・文化 未来を拓き<u>豊かな学びと文化が薫る誇りあるまち</u> NAHA まちづくりはひとづくりと言われるように、これからの新しい時代を切り拓く人材を輩出する必要があります。人間性豊かで創造性・協調性に富む自立した市民が、夢と希望にあふれて成長し、豊かな学びと文化が薫る、誇りあるまちをめざします。 そのために、地域全体で子どもや若者の成長を応援し、市民が夢と希望にあふれ、<u>子育てが楽しくなるまちづくりを進めます</u>。保育や教育の充実のためには、家庭や地域、学校が一体となった環境が重要です。学校を地域のまちづくりの拠点にするとともに、子ども達の知的好奇心を高め、その未来を拓く教育を推進する環境を整えます。子どもが楽しく学びたくなり、<u>いつでもどこでもだれでも学びやスポーツを楽しめるまちづくりを進めます</u>。 また、郷土の歴史や伝統文化等の価値を再確認する機会を創出するとともに、芸能や文化にふれあい、受け継ぎながら、新たな文化を創造・発展させ、文化が薫るまちづくりを進めます。[397]	子ども・教育・文化 <u>豊かな学びと文化が薫るわったー自慢のふるさと那覇</u> 【めざすまちの姿に込められた思い】 ・世代を超えた多様な文化・芸術・教育に関心の高い華やぐ文化が薫るまち ・子どもが夢を持ち、幸せを感じる子育て環境が整ったまち ・いつでも誰でも気軽にスポーツを楽しみ、学びたいときに学べる環境をつくり<u>豊かな学びを実践できるまち</u> ■取組みの方向性 1 わったー自慢のふるさとへ ・世代を超えた絆づくり（世代を超えた集いの場、地域の特色あるイベントの実施、自治会や子ども会の活性化） ・若者が輝けるまち（若者を参画させた自治会運営、若者による地域文化の創造） ・誇れるふるさと再発見（まちのランドマークを探す） ■取組みの方向性 2 幸せを感じる子育て環境 ・<u>子育てを応援するまち</u>（自然に触れる機会を創り豊かな感性をはぐくむ、子育て情報の充実したゆいまーる活動） ・こどもの夢が広がるまち（多様な文化を受け入れる、多様な社会活動の充実） ■取組みの方向性 3 豊かな学びを御万人に ・学びやすい環境づくり（安全・安心な環境づくり、子供たちが行きたくなる魅力ある学校づくり、授業や学習に集中できる環境づくり） ・豊かな学びの提供（いつでも・誰でも学べる環境づくり） ・生涯スポーツで日々頑丈（元気・はつらつなおじい・おばあ、市民のためのスポーツアイランド） ■取組みの方向性 4

基本構想（案）	市民提案
産業・観光・情報 ヒト・モノ・コトが集い、育ち、ひろがる<u>万国津梁</u>のまち NAHA 我が国の南の玄関口として、アジアに開かれた本市は、<u>世界水準にふれあい、つながり、ひろがる</u>ことで新たな時代を切り拓く可能性を秘めています。この機会を確実に捉え、国内外から優れたヒトやモノが集い、そこから新たなモノやコトを生み出し、世界へ羽ばたくことで、躍動感がみなぎる万国津梁のまちをめざします。 そのために、先人が築き上げた歴史や文化と、四季を通じて温暖な恵まれた気候を活かした国際リゾート地として、また、国内のみならず外国からの旅行者が何度も訪れたい<u>観光地としての地位を築きます</u>。さらに、リーディング産業である観光産業や情報通信関連産業はもとより、様々な産業の活性化や連携を図るとともに、アジアの主要都市との近接性と言った地理的優位性や昔ながらのマチグラー等の<u>地域資源を活かした産業の育成・振興</u>を図ります。市民一人ひとりの働く力をさらに発揮できる環境を整えます。[381]	華やぐ文化が薫るまち ・花咲く文化・芸術のまち（世代を超えた多様な文化、五感で体感する伝統文化・芸術を身近に） ・ウチナーグチを生活に（温かなウチナーグチの継承、普段使いのウチナーグチ） 産業・観光・情報 <u>ふれあい つながる ひろがる</u> 国際都市てんぶす なは 【めざすまちの姿に込められた思い】 <u>万国津梁</u>の伝統精神を発揮し、亜熱帯性の温かい気候、独自性の高い文化、そして人々の優しさ・温かさで、訪れる人々を魅了するまちを目指します！そして、人々が集まり、ふれあい、つながることで輪がひろがり、希望にあふれ、市民一人ひとりが豊かさを実感できるまちを目指します！！ ■取組みの方向性 1 <u>世界が集う国際観光文化都市（市経済を担う観光政策）</u> ・那覇ならではの観光地形成・情報の発信 ・充実した観光客受入環境整備 ・観光産業の持続的発展・品質向上 ・魅力あるコンテンツの創出・周辺地域との連携強化 ■取組みの方向性 2 <u>産業の振興・活性化（市産業全体の活性化の取組）</u> ・企業の経営基盤強化・定着 ・企業立地・新規事業の創出 ・地場産業・商店街等の活性化 ・労働環境の整備・雇用対策 ■取組みの方向性 3 持続的発展への戦略的取組（投資奨励・経済構造転換・人材育成）

基本構想（案）	市民提案
環境・都市基盤 <u>都市機能と自然環境が調和した住みつづけたいまち</u> NAHA 本市は、亜熱帯の庭園のような都市をめざし、魅力にあふれ住みよいまちとして発展してきました。これからも安全・安心で快適な都市機能と低炭素社会の実現に向けた地球にやさしい環境共生都市が調和した、<u>誰もが訪れたい、住みつづけたいまち</u>をめざします。 そのために、市内にある貴重な自然環境と多様な生態系を後世に残し、環境再生活動に積極的に取り組みます。災害に強く、安全・安心で快適な道路や公園、交通システム、ライフラインである上下水道等必要な都市基盤の整備とともに、西海岸に広がるウォーターフロントエリアの整備を進めます。亜熱帯地域にふさわしい緑と水辺空間を保全・創出するとともに、市民や事業者と連携し<u>公共空間のリノベーション</u>に取り組み、快適で住みよいまちづくりを進めます。返還が予定されている那覇軍港の跡地利用については、臨港・臨空の優位性が発揮される活用を意識します。[379]	環境・都市基盤 <u>都市機能と自然環境が調和した世界に誇れるまち</u> 【めざすまちの姿に込められた思い】 ・個性ある歴史・文化・自然環境の魅力がより一層引きたつ、安全・安心で快適に暮らせるまちを目指す。 ・<u>世界の人々も住みたい・住み続けたいと思えるまち</u>を目指す。 ■取組みの方向性 1 安全・安心で快適に住みよい都市 ・誰もが安心・安全に暮らせ災害に強い、犯罪がないまちづくり ・土地・建物が有効利用されているまちづくり ・<u>公共空間のリノベーション</u> ・住環境が整備された住みよいまちづくり ・移動しやすく、わかりやすいまちづくり ■取組みの方向性 2 豊かな歴史・文化と自然環境が調和した都市 ・魅力あふれる歴史・文化の地域特性を活かしたまちづくり ・自然が感じられるまちづくり ・全ての生き物の命が尊重され、多様な生態系がはぐくまれるまちづくり ■取組みの方向性 3 地球にやさしいまち ・地球温暖化対策の促進

基本構想（案）	市民提案
4 重点取組事項 ～NEXT-100☆まちの「仕次ぎ」プロジェクト～ 100 年を超える泡盛の古酒（ケース）は、丁寧な「仕次ぎ」により、その芳醇な香りとまろやかな風味を後世に引き継いできました。本計画期間中、市制施行 100 年を迎える本市にあっては、これまでの確かな歩みを進めながら、次の 100 年にも想いを馳せなければなりません。活力にあふれ、次世代の笑顔が輝く那覇市になるよう、これからの 100 年を展望し、まちの「仕次ぎ」として新たなしくみづくりに取り組みます。未来を拓く 3 つの「力」が確実に発揮されるよう、以下を重点取組事項と位置づけ、全庁横断的な推進体制を構築し、様々な施策を展開していきます。 ☆地域の「力」が広がるしくみづくり 小学校区を拠点とし、自治会、学校、NPO、企業等が新しいコミュニティを築くとともに、様々な地域資源を結び付けていくシステムを構築し、お互いに出来ることを持ち寄ることで、まちの活性化を進め、地域の「力」が広がるしくみをつくります。 ☆稼ぐ「力」を高めるしくみづくり より身近になるアジアとのつながりを強め、成長産業分野を担うグローバル人材を育成するとともに、土地の高度利用を促進し人材や企業の集積を進め市域全体の経済的な基盤を強化することで、稼ぐ「力」を高めるしくみをつくります。 ☆ひきつける「力」が輝くしくみづくり 景観の美化や交通環境を充実させるとともに、子育てや就労の環境を整えることで、訪れたい、暮らしたいと思えるまちの魅力を高め、多くの人をひきつける「力」が輝くしくみをつくります。	・循環を基調にした持続可能なまちづくり

基本構想（案）	市民提案
5 基本構想を推進するために ～市民との信頼を深め、将来にわたり持続可能な行政～ 基本構想で描く「めざすまちの姿」を実現するためには、市民一人ひとりがまちづくりの主演となり、協働によるまちづくりをさらに深化させる必要があります。そのために、行政は、限られた経営資源である「ヒト・モノ・カネ・情報」を有効に活用しながら、市民との信頼をさらに深め、将来にわたり持続可能な行財政運営を行わなければなりません。 ☆市民との信頼を深める職員・組織づくり 市民との信頼を深めるためには、市民から頼りにされる「ヒト」が継続して育ち、様々な「情報」を市民と共有する必要があります。市民ニーズに合った質の高い行政サービスを提供するため、職員の政策形成能力や協働を推進するためのコーディネート能力を高めるとともに、社会環境の変化に適切かつ迅速に対応できる組織機構を構築します。職員の健康やワークライフバランスに配慮し、適正な定員管理を行っていきます。情報セキュリティ対策に万全を期して個人情報を適切に管理し、様々な情報をわかりやすく整理し、発信、提供します。 ☆持続可能な行財政運営を行う 時代とともに多様化していく市民サービスを行うためには、効率的で効果的に「モノ」や「カネ」を管理するという行財政運営を行う必要があります。公共施設については、将来の推計人口に対応するための適切なあり方を見い出すとともに、必要に応じて、民間の知恵と経験を活用します。行政経営的な視点を取り入れながら計画的な執行管理と財務情報に関する説明責任の充実による規律ある財政運営を行います。目的を共有し、時代に見合った行政サービスの品質を確保するとともに、総合計画が市民と行政がともにめざすまちの姿の羅針盤となるよう効果的な進捗管理の手法を確立します。	

基本構想（案）	市民提案
6 将来人口 本市の人口は、平成 27 年（2015 年）の国勢調査では 319,435 人となっています。那覇市まち・ひと・しごと創生総合戦略の人口ビジョンにおいては、平成 27 年から平成 32 年に人口のピークを迎え、その後、減少を続け平成 72 年（2060 年）には、約 25 万 4 千人にまで減少し、働き手である生産年齢人口の総人口に対する割合は 63.9%から 53.6%にまで減少し、人口構成も大きく変化すると推計しています。本計画期間終了直後の平成 42 年（2030 年）では、総人口は 311,000 人、生産年齢人口の総人口に対する割合は 59.9%と推計しています。 人口減少に歯止めをかけるためには、子育て環境や雇用環境を充実させ、健康長寿の復活に取り組み、笑顔が広がる元気なまちを築いていかなければなりません。本計画においても人口と生産年齢人口の総人口に対する割合において明確な目標を設定し、人口減少問題の克服に向けた確実な一歩を踏み出すこととします。本計画最終年度である平成 40 年の人口の目標は平成 22 年（2010 年）と同水準である 315,000 人とし、生産年齢人口の総人口に対する割合の目標は 61%程度とします。	